## たなべ物産株式会社が建材作品コンテストで受賞

たなべ物産株式会社が、不二サッシ株式会社が主催した「建材作品コンテスト」にてグットデザイン賞を受賞。この賞は、不二サッシ株式会社の建材製品を使用した施工物件を対象にビルサッシ部門、フロント部門、新商品部門、リフォーム部門から最優秀賞、グッドデザイン賞、ハイテクニカル賞、各部門賞を表彰するもの。たなべ物産株式会社は、ビルサッシ部門で『高尾の里拠点施設』にて受賞した。

この施設は高尾の自然、歴史文化や市全体の伝統文化の発見・発信の場として建設されたもので、正式名称『高尾599ミュージアム』として8月11日に開館した。「599」は高尾山の標高599メートルにちなんでおり、高尾山麓の新観光施設として注目を集める。足を運んだ際には、是非サッシにも目を留めてみては。

## ㈱ナラハラオートテクニカルがN.Yで開催されたMD&M EAST（医療機器関連）に出展。

海外への展示会出展は、小規模事業者にとっては資金面をはじめ語学力等ハードルが高いが、①八王子市の助成金の活用、②㈱インデックスライツ（中小企業の海外進出・営業支援）によるサポートを受け実現した。また、HFAからも㈱美山技研・㈲伸栄プラスチック・㈱アトム精密・㈱栄鋳造所の計５社が共同出展し、互いにサポートしあえたのも大きかったようだ。

同社は自社の技術や商品を触って、見ていただこうと微細加工品・自社製品のアルミブレッドボード・iPhoneカバーを展示、定番の穴あきシャー芯の配布を行った。「自社のようなスモールビジネスでも十分大きな可能性を感じたのと同時に、自社の足元をしっかりと固め、はっきりとした目的をもって挑む必要があると体感してきました」と同社代表取締役の内野氏は語る。

# 関連団体からのお知らせ

## サイバーシルクロード八王子からのお知らせ

### マイナンバー制度対応無料相談会

本年10月より、個人番号(マイナンバー)通知カードが配付され、翌年１月より、中小企業の皆様は新入社員や退職者の社会保険手続き、源泉徴収票の作成等において、従業員個々人のマイナンバーを使用することになります。それに先立ち、社員やその扶養家族等のマイナンバーを取得する必要があり、またその取得や利用、保管、廃棄などを行うことのできる担当者、業務プロセスや規定、手順などのルールを決める必要があります。

そこで、この度サイバーシルクロード八王子では、八王子商工会議所と協力し、当マイナンバー制度対応準備のための「無料相談会」を下記の通り開催すること にいたしました。 マイナンバー制度の概要は理解しているが、自社としてどのように進めていったらよいのか分からない、自社にあった管理方法等について疑問 をお持ちの方は、是非当相談会をご活用ください。

《日　時》　8月19日（水）～10月28日（水）
※9月23日、10月14日を除く毎週水曜
16:00～19:00（各日共・相談時間1社40分）
《場　所》　サイバーシルクロード八王子
《相談料》　無料
《相談員》　八王子ITネットワーク「マイナンバー研究会」メンバー
《お申込み》　サイバーシルクロード八王子HPをご覧ください。

### 編集後記

こんにちは、8期生の駒井です。今回初めて広報誌の制作に関わらせていただきましたが、スケジュール管理の難しさというものを思い知らされました。仕事優先になるのは当然なので、締切には間に合わないということも時にはあると思いますが、どうか間に合わない場合でも連絡だけはいただけるようお願いいたします。まだまだ学ばなければいけないことだらけですが、少しでも皆様の力になれるよう楽しく実のある広報誌を目指したいと思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。

【広報委員会　駒井】

＊次号は平成27年12月発行予定です

HFA会報誌「みらいへ」vol.4
平成27年9月発行
編集・発行　HFA広報委員会

HACHIOJI
HFA会報誌
みらいへ
Vol.4
2015年9月発行
編集・発行　HFA広報委員会

# 柔軟な発想とチャレンジ精神で、会社の未来を切り拓く

㈲伸栄プラスチックの事業である静電植毛は、0.1～5㎜程の短いナイロン繊維を帯電させ、静電気によって、接着剤が塗布された部分をコーティングする加工技術である。こたつのヒーター部を覆うカバーや自動車の内装部品など、身近な物に用いられているので誰もが目にしたことがあるだろう。

同社は昭和35年、プラスチックのバリ取りや塗装を行う企業として創業。昭和52年、当時では先端技術と言われた静電植毛にいち早く乗り出し、以来植毛加工一筋で今日に至る。現在植毛加工を行う国内企業は約20社に減っているが、同社は色のバリエーションにも対応できるという強みを生かし自動車部品以外にも幅広い製品を扱うことで他社との差別化を図っている。

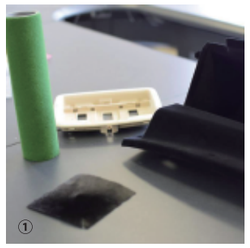
同社の近藤学氏は20歳の頃、創業者である祖父が体調を崩したことがきっかけで会社を手伝い始め、やがて本業として働くようになった。幼少期より祖父から工場の跡取りとして嘱望されながらも、経営者になることは深く考えていなかったそうだが、未来塾への参加や祖父の死を通して意識が変わっていったという。

以前は「現場が第一」と考え、外との交流には消極的だったが、未来塾の仲間の助言により、社外の人との繋がりの重要性を実感するようになったという。

自ら新しい開発案件を獲得するなど、仕事の幅を広げることにも意欲的だ。最近では東大・千葉工大からの依頼で、導電性が高くて扱いにくいといわれている炭素繊維の植毛に取り組んでいる。植毛の遮光効果を望遠鏡に応用し、今まで見えなかった天体を観測するという夢のあるプロジェクトだ。一方、社員の育成にも積極的で、今年採用した3名の新人には早速現場の作業工程を任せている。技術を習得するまでは見習いをさせるという従来の方法を転換し、まずやってみて、肌で感じながら臨機応変に対応できるようになることを狙いとしている。

自動車関連の仕事が減りつつあり、今後は途上国に技術提供することも視野に入れていると語る近藤氏。現状を踏まえながら将来を見据え、柔軟な発想で新しい事に挑戦する姿勢に、次期代表としての風格を感じた。

（上村周）



①加工が難しいといわれている炭素繊維の植毛（手前）、植毛でフィルター機能が付加された水道管（左）、自動車内装部品（右・奥）。
②近藤氏が常務に就任した年、社員一丸となって各パーツに植毛加工を施した、世界に一つのメモリアルな自転車。
③接着剤の塗布、繊維の吹付け、余分な繊維の除去など、各工程が一つ一つ手作業で行われ、高い技術が求められる。